

COVID-19 流行下における 人々の風景に対する感性の変化と新たな価値観

Changes in sensitivity and new values for people's scenery during the COVID-19 pandemic

人文科学系/風景論/論文

地域キュレーションコース

保科 さくら

Sakura Hoshina

◎研究の背景と目的

青田は、環境美学が原生自然という意味での自然環境を離れて人間環境へと目を向けるとき、そこには我々の日常への注目が含まれていたとしている¹⁾。人為が重なる自然環境の中において人々の関心が向くのは生活の中で出会う何気ない事象や対象であることが理解でき、風景もその一部に含まれると考えられる。

2019年、中国武漢で発生したCOVID-19は世界で感染拡大し、社会環境や経済に大きな打撃を与え、人々の生活様式も大きく変化した。日常における風景とは目的として経験されるものではなく、個人のおかれた環境によって無意識のうちに目に留まり、風景として認識されると考える。よって、コロナ禍という環境で生じた疲れやストレスから解放するための手段として身近にある風景に対する意識が高まったと予想する。

本研究では、①社会に共有された風景イメージの変化を明らかにするため、地方新聞の写真コンクールに応募された写真をもとにコロナ以前からコロナ禍以降にかけての特徴分析、②コロナ禍の日常の中で起きた風景に対する感性の変化を明らかにするため、地方新聞の読者投稿に現れた変化の分析、③とくに若年世代の感性の変化を明らかにするため、アンケート調査にもとづく分析を行い、風景と人の関係性と身体面、精神面においても不安定な環境下で求められた風景の特質を明らかにする。

◎コロナ禍における風景と人の関係性と感性の変化

生の自然だけでなく、人為的なものを含めて風景と認識し、風景を様々な手段で美的に評価するようになったと考える。

①の調査では、人物が自然や建造物などに趣を出させる要素としての役割に転換したことが確認できた。また、②と③の調査から、人との直接的な交流は困難となったが、SNSなどを用いた間接的な交流は変わらずに行われていた生活状況が確認できた。

特に③の分析から、新型コロナウイルスによる生活様式の変化に伴って、日常生活の中で関心が向く風景の対象範囲が拡大したことがうかがえた。コロナ禍以前に日常であった人との交流の風景が、コロナ禍という制約された環境下で直接的な交流ができた時、以前よりもその風景に対する美的な感覚が強く作用していた。つまり、人との出会いや関わりという行動自体が過去の美しい経験として認識されるようになった。また、他者とのつながりが強く求められたコロナ禍という環境下で、SNSなどの投稿によって写真に収められた風景体験を共有し他者からの共感を得ることをとおして、そうした風景を美的に評価する行為が一般化していった。

◎風景の新たな価値と感性の変化

風景の新たな価値として、日々の生活で生じる疲労やストレスから人々を回復させる効果があることを挙げる。③の分析では、コロナ禍という環境の変化を経験したことで人々に複雑な感情が交錯している状況が見受けられた。図をもとに、コロナ禍の生活環境とその生活を経験したことから求められるようになった生活環境について整理した。

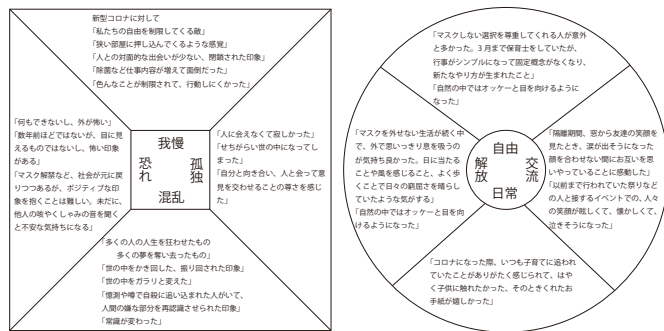


図 コロナ禍に対するイメージとコロナ禍において心動かされた瞬間の回答の比較

調査では、数値化された人の死に違和感を抱くことなく聞き流すという行動、久しぶりに人と交流しても話題はコロナ関連の話ばかりであった生活、子どもたちが道を挟んで距離をとって遊んでいた姿など、コロナのストレスについての記述が複数挙げられた。このような状況から解放させてくれたのが、毎日の通勤で出会う橋から見える海や色、身近にある草花、青空、鳥のさえずり、他者の存在などの日常にある風景であった。風景は、人々がおかれた環境を表す存在として人々の傍にあり、写真や言葉などで可視化できる。しかし、それだけでなく人の生を強く感じさせ、人と会って話すことの楽しさを再認識させてくれるなど、人々の心身の状態を回復させる存在としての価値をもつことが示された。

風景に日々の生活で生じる疲労やストレスから人々を回復させる効果があることはカプランら専門家が指摘してきたが²⁾、一般の人々もそうした価値を認識するようになったことは、コロナ禍を経て生じた風景に対する感性の変化だといえるだろう。

[引用文献]

- 1) 青田麻未 『環境を批評する－英米系環境美学の展開』 春風社 2020 p20
- 2) カプラン, R カプラン, S ライオン, R.L. 『自然をデザインする－環境心理学からのアプローチ』 誠信書房 2009 p51-58